今日のトピック

トルコ中銀、各種政策金利を据え置き

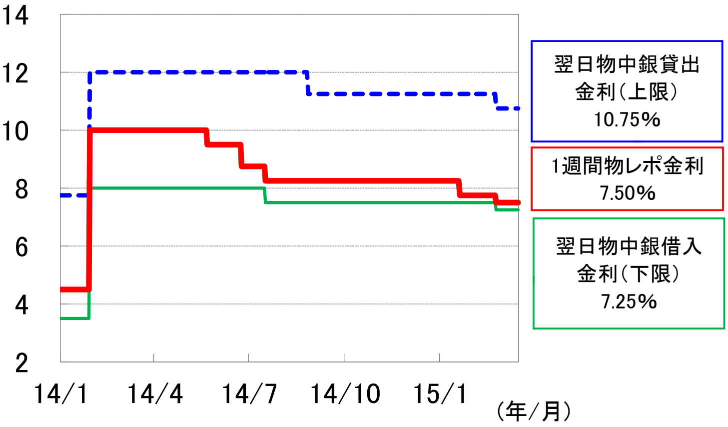
ポイント1 各種政策金利を据え置き

市場予想通りの決定

■トルコ中央銀行（以下、中銀）は17日、主要な政策金利である1週間物レポ金利を7.50%に、金利誘導レンジの上限金利を10.75%に、下限金利を7.25%に据え置くことを発表しました。

■中銀は、昨年1月にトルコリラの安定化を狙い、各種政策金利を大幅に引き上げました。その後は利下げによる金利水準の正常化を進めており、今年1月と2月の2会合連続で利下げを実施していました。今回は、足元のトルコリラ安などから利下げ見送りとの見方が大勢でした。

各種政策金利



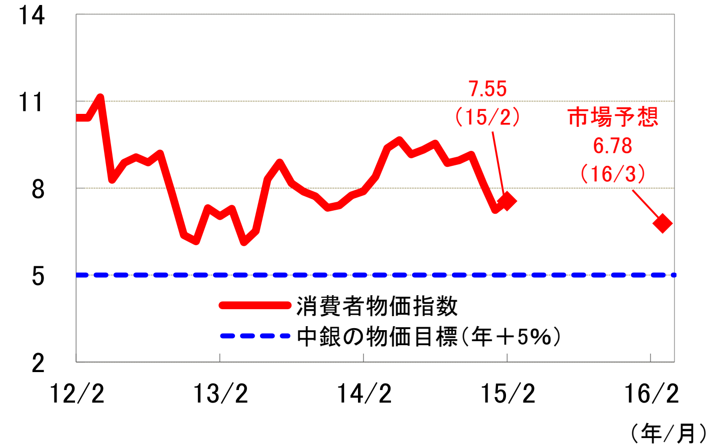
ポイント2 物価上昇の加速などに対応

世界の金融市場不安定化も考慮

■2月の消費者物価指数は前年同月比＋7.55%と、前月の同＋7.24%から上昇しました。また、4カ月連続で前月比低下していた市場の1年後の予想も、3月には上昇に転じました。

■中銀は、これまでの金融引き締め策の効果などから、物価の基調は落ち着きつつあると見ています。ただし、世界的な金融市場の不透明化や、野菜など食品価格の上昇を警戒しています。米国の利上げ開始を巡る観測などから足元でリラ安圧力が継続していることもあり、今回は政策金利の据え置きが適当と判断したと見られます。

消費者物価指数



（注）各種政策金利は2014年1月1日～2015年3月17日。
消費者物価指数は2012年2月～2015年2月。
市場予想は、トルコ中央銀行が2015年3月13日に発表した調査結果。
（出所）Bloomberg L.P.、トルコ中央銀行のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

今後の展開 利下げ継続には、リラの安定などを通じた物価見通しの低下が重要

■1月の鉱工業生産指数がマイナスに転じるなど足元の景気に弱さが見られ、利下げによる景気の下支えが必要な状況です。ただし中銀は、物価見通しが顕著に改善するまで、引き締め姿勢の解除には慎重なスタンスを続ける考えです。

■声明文では、これまでと同様に、市場の物価見通し、足元の物価動向、その他物価に影響を与える要因を注視する方針が示されました。さらなる利下げには、リラの安定などを通じた物価見通しの低下が重要と見られます。

ここもチェック！
2015年03月11日　新興国通貨の動向
2015年02月25日　トルコ中銀、2会合連続の利下げ

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。